

平成29年度 羽黒小学校学校評価

甲府市立羽黒小学校

はじめに

羽黒小学校では、学校評価について前期・後期の2回自己評価（教職員による評価）と児童アンケートを行い、PDCAサイクルを1年間で2サイクル回す取組を行っている。また、後期に1回行う保護者アンケートも合わせて、結果の集計及び分析と考察を管理職が中心に行い、課題についての具体的な対応策について、校務分掌の担当が中心となって考え、全体に提案していくシステムを取っている。

このような取組によって、教職員全体が関わった学校評価となり、教育活動全体にわたって、学校評価への取組の成果が現れると考える。また、この成果と課題をもとにスクールプランを見直し、重点項目、努力目標・数値目標について加除修正を行い、次年度のスクールプランにつなげている。

I 自己評価のまとめと今後の方向性

1 学校教育目標「知」（確かな学力を身につけた子どもの育成）に関して

【自己評価結果】

* 指数は2.5が中位

(1) あなたは、各教科で基礎基本の定着を目指した授業実践を行っていますか。

肯定的評価（89.5%）否定的評価（10.5%） 指数3.3

(2) あなたは、学習規律の確立を図った指導を行っていますか。

肯定的評価（94.8%）否定的評価（5.2%） 指数3.4

(3) あなたは、甲府スタイルを意識した授業の工夫を行っていますか。

肯定的評価（89.5%）否定的評価（10.5%） 指数3.3

(4) あなたは、言語活動を充実させ、思考力を高める授業づくりに取り組んでいますか。

肯定的評価（78.9%）否定的評価（21.1%） 指数3.1

(5) あなたは、個に応じた指導、きめ細かな指導を行っていますか。

肯定的評価（73.7%）否定的評価（26.3%） 指数3.2

(6) あなたは、家庭学習の習慣化、定着化のために、家庭と連携した取り組みを行っていますか。

肯定的評価（84.2%）否定的評価（15.8%） 指数3.3

(7) 子供たちは、一生懸命学習に取り組んでいますか。

肯定的評価（95%）否定的評価（5%） 指数3.4

◇達成状況および課題等への取組◇

確かな学力に関わる評価は昨年度と同様おおむね良好である。今年度の校内研究では、「自ら考え、進んで表現する児童の育成」をテーマに、「聞く・話す」活動を中心とした授業づくりに取り組み、成果を上げることができた。学力向上に向け、基礎・基本の定着や家庭学習の習慣化について、今後さらに発達段階に即した工夫を加え、継続的に取り組む必要がある。

学習規律の確立については、「羽黒っ子学習のてびき」により、1年生の段階から学習をする姿勢、話しの聞き方、発表の仕方等、各学年の成長に合わせて系統性を持ってしっかり身に付けていく取組を引き続き行っていく必要がある。それを基盤にして、授業づくりについては、スクールプランの数値目標「やまなしスタンダードの実施80%」を目指し、「甲府スタイル」の学習の取組も合わせて、学びへの意欲を喚起する授業の工夫、個に応じた指導の工夫、言語活動の充実を行っていくよう、継続的に努力していきたい。

家庭学習の定着については、家庭と連携した取組の工夫が必要である。予習や復習の仕方を具体的に提示する等、本校の特徴的な取組であるレコーディングスタディーを効果的に継続していく工夫を再考し、習慣化につなげていきたい。これによって、スクールプランの数値目標「学習規律の徹底80%」「授業改善への取組（わかりやすさ・楽しさ）90%以上」「見通しと振り返りの授業の実施90%」「家庭学習（自由学習）の推進80%以上」を目指したい。

2 学校教育目標「徳」（心豊かな子どもの育成）に関して

【自己評価結果】

* 指数は2.5が中位

(1) 子供たちは、すすんであいさつをしたり、教職員等に対して「です」「ます」をつけて話していますか。

肯定的評価（90%）否定的評価（10%） 指数3.1

(2) あなたは、学校生活の中で、子供たちに場面にあったあいさつや言葉遣いの仕方を指導していますか。

肯定的評価（100%）否定的評価（0%） 指数3.5

(3) 子供たちは、思い遣りや互いによさを認め合う気持ちを持ち、お互いに協力し合って活動していると思いますか。

肯定的評価（95.3%）否定的評価（4.7%） 指数3.2

(4) あなたは、子供たちがお互いのよさを見つけて認め合い、褒め合うなどの機会を作っていますか。

肯定的評価（100%）否定的評価（0%） 指数3.5

(5) あなたは、思い遣りや助け合いの大切さについて積極的に子どもたちへの指導を行っていますか。

肯定的評価（100%）否定的評価（0%） 指数3.6

(6) あなたは、道徳の時間や様々な機会を通して豊かな心を育てる指導を行っていますか。

肯定的評価（95%）否定的評価（5%） 指数3.4

(7) 子供たちは、すすんで読書に取り組んでいますか。

肯定的評価（95%）否定的評価（5%） 指数3.3

(8) あなたは、子供たちが本に親しみ、進んで読書活動に取り組む指導をしていますか。

肯定的評価（90%）否定的評価（10%） 指数3.1

(9) あなたは、日頃より子供たち一人一人に目を向け（心を向け）、一人一人を大切にし、いじめの未然予防に努めていますか。

肯定的評価（100％）否定的評価（0％） 指数3.8

◇達成状況および課題等への取組◇

心の教育に関わる評価は昨年度と同様おおむね良好である。特に、あいさつ・言葉遣いの指導では、教職員の課題意識も高まり、共通理解のもと組織的に指導したことにより、子どもたちの変容が見られてきた。しかし、地域の中での挨拶ができていない点が課題となっている。今後も一貫性のある継続した指導を通して、子どもたちに他者を大切に、望ましい人間関係を築く力を身に付けさせたい。また、豊かな心の育成に向け、子供一人一人に目を向け、行動や心の変化に気付き、教師間の連携を取りながら子供の指導にあたっていきたい。また、児童会の縦割り活動を工夫し、挨拶運動や委員会活動など児童の主體的な活動を展開した。その結果、お互いに認め合い、それぞれのよさや特徴を受け入れながら活動する姿が見られるようになったことは大きな成果であったと言える。今後、家庭や地域との連携により、道徳の時間や様々な機会を通して豊かな心を育てていくことを常に念頭に置いた教育活動が展開できるよう全校で取り組み、心が通い合う学校環境の中で、スクールプランの数値目標「学校へ通うのが楽しみな児童90%以上」「いじめ解消100%」を目指していきたい。

読書への取組については、スクールプランの数値目標「読書意欲と習慣化の向上70%」以上は達成することができた。しかし、読書を進んでする児童としない児童の二極化の傾向が見られる。朝読書や図書委員会の取組、また、ボランティアでお母さん方が活動している読み聞かせグループ「はぐろっ子」の協力を得て、工夫を加えながら、引き続き児童自ら本に親しむ習慣をつくっていきたい。

3 学校教育目標「体」（心身ともにたくましい子どもの育成）に関して

【自己評価結果】

* 指数は2.5が中位

(1) 子供たちは、「早寝・早起き・朝ご飯」ができていますか。

肯定的評価（90％）否定的評価（10％） 指数3.0

(2) あなたは、家庭と連携して、「早寝・早起き・朝ご飯」の取り組み、指導を行っていますか。

肯定的評価（90％）否定的評価（10％） 指数3.1

(3) あなたは、家庭と連携し、子供たちに望ましい生活習慣が確立できるよう指導を行っていますか。

肯定的評価（100％）否定的評価（0％） 指数3.4

(4) 子供たちは、体育の時間や休み時間に、すすんで運動をしていますか。

肯定的評価（100％）否定的評価（0％） 指数3.2

(5) あなたは、子供たちに校庭で遊んだり、体育委員会の取り組みにすすんで参加し、体力を付けていく指導を行っていますか。

肯定的評価（100％）否定的評価（0％） 指数3.3

(6) 子供たちは、好き嫌いなく、給食を残さずしっかり食べていますか。

肯定的評価（80％）否定的評価（20％） 指数3.1

(7) あなたは、給食等を通して、食育に関する指導を行っていますか。

肯定的評価(100%) 否定的評価(0%) 指数3.4

◇達成状況および課題等への取組◇

体づくりに関しては、昨年度の傾向と同じ結果であった。「知」「徳」と同様にさらなる改善に向けて取り組む必要がある。「早寝・早起き・朝ご飯」や運動、食生活等、基本的な生活習慣にかかわっては、スクールプランの数値目標「早寝・早起き・朝ごはんの達成80%」に対して、保護者64%の結果からも、家庭との連携の中での取組が昨年度に引き続き課題として残る。数値目標「朝食の摂取100%」も合わせて改善に向けての家庭への啓発も強化しながら取組を行いたい。

体づくりの取組については、一校一実践の取組の中で、業間休みに体育委員会が企画し実施しているエンジョイスportsや縦割りゲームを通して運動に親しむ取組が行われている。スクールプランの数値目標「業間活動や外遊びの奨励80%以上」達成を目指してさらに活発な活動を推進していきたい。

食育に関する取組については、スクールプランの数値目標「好き嫌いの減少、マナー向上70%」に対して、自己評価80%で目標が十分達成され、前期よりも改善が見られる。この結果には給食委員会の取組も寄与するところが大きい。しかし、指数では3.1とさらに改善に向けての努力は必要である。このことについては、家庭生活での食育、食習慣にかかわり大きな課題として捉える必要がある。今後も家庭との連携を図り、食育指導、生活習慣の確立等、具体的な取組を行っていきたい。

4 安心・安全を基盤とした家庭や地域に信頼される学校づくりの推進に関して

【自己評価結果】

* 指数は2.5が中位

(1) あなたは、日頃から子供一人一人の理解に努め、保護者との連絡を密にして生徒指導等を行っていますか。

肯定的評価(95%) 否定的評価(5%) 指数3.6

(2) 本校は、生徒指導委員会等、校内指導体制が有効に機能し、問題行動の早期発見・早期対応がなされていますか。

肯定的評価(95.2%) 否定的評価(4.8%) 指数3.7

(3) あなたは、おたよりや連絡帳を通して学校の様子や子供の様子を保護者に伝え、協力を得るよう努めていますか。

肯定的評価(95.2%) 否定的評価(4.8%) 指数3.5

(4) 本校は、教育活動について、積極的に保護者や地域に情報発信されていますか。

肯定的評価(100%) 否定的評価(0%) 指数3.8

(5) あなたは、子供たちが安全に登下校や学校生活を送れるよう、日頃から安全指導や防犯・防災指導を行っていますか。

肯定的評価(100%) 否定的評価(0%) 指数3.7

(6) 本校は、安全確保のため、危機管理マニュアルを共通理解し、適切に対応できる体制になっていますか。

肯定的評価（ 96%）否定的評価（ 0%） 指数3.6

◇達成状況および課題等への取組◇

信頼される学校づくりに関しては、昨年度よりさらに評価が上がってきている。日頃からの子供一人一人の理解と保護者との連絡を密にし、全校体制で問題行動の早期発見・早期対応に臨んでいることが結果につながっている。スクールプランの数値目標「学校からの情報発信85%」に対して、「通信に目を通してしている92%（保護者アンケートから）」、「学校からの情報発信と連携：保護者評価80%以上」に対して、「子供のノートやプリントなどを見て子供の学習状況をつかんでいる82%・授業参観や懇談会等の学校行事参加90%（保護者アンケートから）」という結果で目標の達成が見られる。一方、「学校に関わる意見・要望をその都度学校に伝えているか63%（保護者アンケートから）」の結果を見ると、保護者との信頼関係づくりをさらに強くしながら保護者が話しやすい、相談しやすい環境をつくる努力が必要である。今後も、チェック機能を有効に使うとともに、学校の様子を積極的に保護者や地域に発信し、三者の連携の中で、「家庭でしつけ、学校で学び、地域で育つ」取組を行っていききたい。

安心・安全に関する取組については、スクールプランの数値目標「安全教育の充実（自分で命を守る行動）80%」を目指し、引き続き学校施設の安全点検、様々な状況を想定した避難訓練の実施、登校班指導、通学路の危険箇所の確認等、PTA活動の協力も得ながら、日常的な取組を継続して行っていききたい。そして、どの子にとっても安心して学校生活を送れる環境づくりに全校体制で取り組んでいききたい。

5 教職員としての専門性・指導力を高め、質の高い教師集団の構築に関して

【自己評価結果】

* 指数は2.5が中位

(1) あなたは、地域や保護者・子供からの信頼を損なわないよう、服務規律の確保に努め、公私にわたり教育公務員として自覚ある行動をとっていますか。

肯定的評価（100%）否定的評価（0%） 指数4.0

(2) あなたは、日頃から教師間の連携（報告・連絡・相談・協力・意見交換・指導助言等）を大切にし、協調性を持って職務に専念していますか。

肯定的評価（100%）否定的評価（0%） 指数3.8

(3) あなたは、自己の専門性を高めるため、日頃より教材研究やその他の研修・研究に努めていますか。

肯定的評価（100%）否定的評価（0%） 指数3.4

(4) 本校は、全職員共通理解のもと、全校体制で取り組みが行われていますか。

肯定的評価（100%）否定的評価（0%） 指数3.5

◇達成状況および課題等への取組◇

教師集団としての質の向上に関しては、昨年度に引き続き、日頃から服務規律の確保について全職員で確認し合い、教育公務員として自覚ある行動に努めていることが評価でき

る。スクールプランの数値目標「服務規律の確保100%」は肯定評価100%で達成しているが、今後も、さらに一人一人の意識を高め、公私にわたる教育公務員としての自覚ある行動をとり続けたい。

指導力向上に向けては、分かる授業、学ぶ意欲を喚起する授業づくりを目指し、校内研究や講師を招聘しての研修を通して、全職員で力量を高める体制をつくってきた。また、日常の教育実践こそ研修である。今後は、学年内のOJTを機能させ、指導力の向上を図る等、さらに日常的な教材研究はもちろん、様々な研修の機会を通して専門性を高め、確かな学力の定着に努めていきたい。

全校体制の取組については、昨年度の評価から前期、後期とさらに上昇した結果であった。常日頃「報告・連絡・相談」を心がけ、スクールプランの数値目標「チーム羽黒としての意識と取組100%」を意識して取り組んできた結果目標達成につながった。今後も学年の中で、また、学年相互のコミュニケーション、分掌ごとの連携を大切にし、全職員共通理解のもと、チームとしての力をさらに向上させていくよう努めていきたい。

◇全体を通して◇

全校で学校が直面している課題、克服に必要な取り組み、重視している内容等を明確にし、全教職員の共通理解を図り、一貫性のある指導を組織的に行ってきた。そうした取り組みから、学力向上や豊かな人間性の育成など児童一人一人に目を向けると、個としての課題、集団の中での課題が明らかになっている。今後もそれぞれの課題について丁寧に対応策を考え、保護者の理解と協力を得て一人一人の児童のよりよい成長につなげていきたい。また、全職員が児童理解、「報告・連絡・相談」、共通理解に努め、全校体制の中でよりよい指導・支援の方向性、また具体的な方策を見出せるよう努力していきたい。学校経営テーマである「全職員が豊かにつながり、羽黒小学校の教育を力強く推進し、学校教育目標『確かな学力を身に付け、心豊かで、心身ともにたくましい子どもの育成』の達成を目指す」を意識しながら、スクールプランの努力目標・数値目標の達成に向けて努力し続ける職員集団でありたい。